

運動会をみんなで盛り上げていきましょう

お彼岸を過ぎ、空や空気がすっかり秋らしくなってきましたね。彼岸花もよく見かけるようになりました。

10月と言えば運動会。運動会では大人たちみんな子どもたちの成長を見守り喜び合える場に、そして大人も楽しく交流し合える場にして行きましょう。

子どもたちのためにみんなで力を合わせよう！ ～署名を通して私たちの声を国や自治体へ届けよう～

昨年、一人のお母さんが発信した「保育園落ちた!!」のブログをきっかけとして、「保育園に落ちたのは私だ!」と保育園入園の「不承諾通知」が届き“仕事のめどが立たない”と困っている人たちが国会前でスタンディング行動を起こしました。こうした行動をきっかけとして、多くの子連れお母さんたちや保育関係者が議員会館で待機児解消と保育士の処遇改善を求める要請や記者会見を行ってきました。

しかし、政府は、私たちが求める認可保育所を整備した待機児解消や保育士の処遇改善ではなく、施設の利用定員を緩和した詰め込み保育や、市町村が責任を持たない企業主導型保育事業の推進など、父母の願いや子どもの立場に立ったものとは逆行した内容のものです。さらに、国家戦略特区においては、0～2歳児までの小規模型保育事業の保育所に5歳児まで受け入れを可とする案を出してきました。当時環境大臣だった丸川議員は「0～2歳は、歩かない。1歳はよちよち、2歳から走り出すことを考えても0.1歳には庭はいらない。」としてビルの一室でもよい小規模型保育事業を認めてきました。この発言とどう整合性を持たせるのでしょうか？

こういった発言の背景には、子どもが育つ環境について全く理解していないもので待機児の解消を図ろうとしているところにあると思います。

また、保育士の処遇改善に至っては、実態に見合った賃金や配置基準など根本的な改善ではなく、「処遇改善加算Ⅱ」という仕組みを導入してきました。これは、職場内において職制階層を作り、その職制に従った研修を受けた者に限って手当を支給するというもので、職員間に格差を持ち込むものです。こうしたことを行えば職員間に分断が起こることは目に見えています。子どもたちの育ちを保障するには、分断の無いあたたかい職員集団の輪が必要です。

私たちが求めるのは、子どもたちの命が守られ、どの子も格差なく発達が保障される保育と、保育者が安心して働くことができる処遇改善です。

こうした、問題を解決するために、より多くの声を署名に託し、「子どもたちが育つ保育環境をよくしてほしい」「認可保育所を整備し、待機児を無くしてほしい」「保育士の処遇を改善してほしい」という願いや要望を請願項目に掲げ国や自治体に届けて行きましょう。

— 子どもたちのことば —

ぱんだ組さんに行った時の事のこと、「ほら、見て!」と真剣な眼差しで虫かごを持って見せてくれる山田ゆうた君。どう目を凝らしても、かごの中には虫は見当たらず、見えるのは虫かごのアミの向こう側に見えるゆうた君の真剣な眼差しだけ。おもわず、「ほんとだ、山田虫がいる!」と答えると、「ちがうわ!オレは人間だ!」と言いながら、はだしの足をドン!と突き出して見せてくれるゆうた君でした。